

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第37節 カターレ富山戦

11/27(日) 16:30~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

まさに『負けに不思議の負けなし』。 岐阜0-倅津【第35節】

「負けに不思議の負けなし」と言ったのはサッカー関係者ではないけれど、GKとの1対1を決められず、シュートを13本撃っても枠を捉えられなければ、こういう結果はやむをえない。それに対して、草津の出来はよくないように見えたが、粘り強くしのがれた後のCKから決勝点を奪われてしまう。セカンドボールを拾われ、左右に振られての失点。ここぞという場面を全員が理解しての連続攻撃にやられてしまった。まさに、何の不思議もない敗戦。ただ、こうやって振り返ってみると、思っきり矛盾してるんだが、腑に落ちない点、不思議がいくつか出てくる。まず、スタメンCBでの川島の起用。野垣内の出場停止という事情はわかる。でも、今季は川島をCBとして見ていないんじゃないかな？何度かCBに「高さ」がないことを訴えていながら、そして、これまでに野垣内だけでなく、秀人や秋田が出場停止になった時でも起用されたのに、なぜ今頃？この日も90分保たなかった彼のコンディションが問題だったのか？それから、地主園から洗一への交替。地主園を下げることに疑問が湧くが、洗一がそのまま彼の位置へ入ったのがさらに不可解。いつから、洗一は2列目、サイドの選手になったのかな？洗一は優大以上に生粋のストライカー、というかセンターフォワード。その彼にクサビのパスを出させてどうするんだろう？それ以外にも不思議なことがあったかもしれないが、勝たなければ最下位脱出がいっそう困難になる状況での選手起用の基準が腑に落ちない。連続得点も途切れてしまい、フラストレーションが溜まるばかりの試合だった。一生懸命やっているのはわかるが、申し訳ないけど拍手はできなかった...

ともかくにも、ホームは残り一試合。2008年と同じく、ホーム3勝のままで終わるのか。それとも、一つ上乗せできるのか。ぜひとも、ホーム最終戦を勝利で締めくくってほしい。(ぐん、)

岡山にロスタイムで逆転勝利し、さあ今度こそホームで連勝を...と臨んだ草津戦。しかし累積警告で野垣内を欠き、さてスタメンのCBは...川島!?これには正直、驚いた。これまで敗戦の記者会見で「CBに身長が足りない」と言いながら、身長188cmで本職CB(のハズ)の川島をCBで使わず、使ったとしてもボランチでの起用だったからだ。他に選手がおらず緊急事態と判断したのか、それとも川島の調子が上がってきたのか...と思いつきながら、試合開始。...あの、確かに守備の出来は、相手の状態やら戦術がハマるかとか色々な要素があるから、一概には言えないのは重々承知してるんですが...「ちゃんと田中・川島のCBコンビで機能してるんじゃない!」と言いたくなったのは僕だけだろうか(苦笑)。まあ、川島の調子がやっとながって来たから起用したんだ...と思うことにした。んで、「これだけ決定機を決められないんだったら、流れは向こうに行ってしまう、負けちゃうよね...」という試合の典型的なパターンだったように思う。失点シーンは、あそこは完全に草津の時間帯で、何でも波状攻撃を仕掛けられて左右に揺さぶられて、ゴールを許してしまった。今期は度々見えたような、あつけない失点ではなく、悔しいけれど、仕方がないかな...とも思えるような失点だった。攻撃面でも、シュート数は草津を上回り、何でも決定機が、それこそロスタイムにも数回あって、その度にスタジアムが沸いたのだから、悔しいけれど、仕方がないかな...というような感情を、僕は少しは感じた。

だけど、選手交替の意図は、僕にはよく分からなかった、というか非常に不満だった。なんで勝利を目指すべきホームでの試合で、交代枠3人の内、ボランチとCBで1枚ずつ使ってしまうんだろう?毎回交替させなきゃならないボランチなんて問題があると言わざるを得ないし、CBも試合終了後の監督コメントを読むと「本人が足が痛いと言うので代えました」ってさあ...ホームで失点を許して、「まだこれからだ!まずは追いついて、そして逆転するぞ!」ってメッセージをピッチに発信しなくちゃいけない時に、CBを交替させるってのは、選手が足を引きずるからとはいえ、一体どうなのよ...(溜息)。残り1枚の交替でも、洗一をMFで起用するってのは、染矢も累積警告で出場停止だったからとはいえ、彼の適正を無視してるとしか思えなかった...(更に溜息)。

試合終了後、選手が必死に戦った結果の敗戦だったのは、多くの人たちが感じたのだろう。拍手で迎える人が多かったように思う。本当は1点でも入っていれば...とは思って、ホームでの負けは見たくないものだが、こういう選手たちの気持ちが見えた試合なら、スタジアムから拍手も起きるのだということ、改めて選手・コーチングスタッフは再認識してほしい。(ささたく)

シーズン後半になって、何度も感じてきた「こういう試合をモノに出来ないから、ぶっちゃけ最下位なんだよな...」というのを、また感じた試合だった。相手の草津はリンコンがかなりの不振で、ホントなら勝ち点3は取らなくちゃいけない試合。そして、現在のFC岐阜がゴールゲットする一番の近道が「押谷をフリーにすること」。そして、それはちゃんと出来ていた。何度も訪れた、彼と相手GKとの1対1。でも、この日は彼のシュートは入らなかった。よく、野球の試合でクローザー(最後の抑え投手)が打たれて負けた時に「彼が打たれて負けたんなら、しょうがない」みたいな言い方をされるけど、この試合もそんな感じだった。

選手交代に関しては、相変わらず。なんで洗一を2列目で使ったのかわからない。川島のスタメンCB起用にも驚いたけど、こちらは「消去法」でまだ理解できる。でも、残念だけど現在のパフォーマンスの落ちた洗一を2列目で使うのなら、2列目に向いていた選手は他にいたように思うんだけど。

まあ、でもこれまでの「どうしようもない、どうしていいかわからない」ような試合ではなかった。選手が戻ってくる時にメインスタンドに残ったお客さんの多くが拍手で迎えたというのも、そういうところなのかもしれない。逆に言えば、こんな試合を終えて拍手で迎えられるくらい、これまで「どうしようもない、どうしていいかわからない」試合を見せられてきた、ということでもあるのだけど。(吉田铸造)

today's guest

カターレ富山

2010 J2 18位
J2通算対戦成績:2勝1分3敗

2011成績
第10節 11/05/04 富山1-0岐阜

2010成績
第0節 10/03/07 岐阜2-富山
第20節 10/08/01 富山3-2岐阜

2011J2 順位表 第35節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から視点)

1	FC東京	74p	+45	65	20	A	H
2	鳥栖	65p	+31	63	32	A	H
3	徳島	65p	+17	51	34	H	A
4	札幌	62p	+14	45	31	H	A
5	北九州	57p	0	42	42	A	H
6	東京V	55p	+23	65	42	H	A
7	千葉	55p	+7	44	37	A	H
8	栃木	53p	+8	42	34	H	A
9	京都	52p	+2	45	43	H	A
10	草津	51p	-5	45	50	A	H
11	大分	49p	-2	39	41	H	A
12	熊本	47p	-12	30	42	A	H
13	湘南	45p	0	44	44	H	A
14	岡山	45p	-15	42	57	H	A
15	富山	42p	-15	35	50	A	
16	愛媛	41p	-11	39	50	A	H
17	水戸	39p	-10	36	46	H	A
18	横浜FC	38p	-15	37	52	A	H
19	鳥取	31p	-20	33	53	A	H
20	岐阜	23p	-42	37	79	---	---

FC岐阜大好き通信(岐大通)

11/2号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:ささたく&吉田铸造

編集子より

ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を遂行することが出来ました。

【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・ MVPは？

ベストゲーム

第3節（ホーム） 岐阜4-3横浜FC

A Tの劇的なゴールで手繰り寄せた勝利。選手の「勝ちたい！」という気持ちが一番結果に結びついた試合だった気がします。試合経過はともかくとして.....（苦笑）（ヤックル）今期は6勝しかしてないから選ぶ対象は少ない（苦笑）んですが...。今期唯一の完封勝ちを収めた9/28第5節・アウェイ栃木戦（1-0）も候補に考えましたが、今期の勝ち試合の中で、「ホームで最も盛り上がった劇的な展開の試合」というポイントで検討した結果、この試合を挙げたいと思います。得点シーンも多くて盛り上がりましたが、それ以外にも決定機が多くて悲鳴を上げたり頭を抱えたり（苦笑）。振り返ってみると、（勝ったから言えるのでしょうか）とても楽しい試合でした。（ささたく）

第1節（ホーム） 岐阜3-2京都

相手のコンディションがあまりにも悪かったことは目をつぶろう。立ち上がりにも通りの安すぎる失点を重ねたことにも目をつぶろう。とにかく、2点ビハインドからひっくり返して勝ったゲームなんて初めてなんだ！こういう勝ち方をしたことがある、という経験は将来絶対力になるはずなのだ。文句なしにベストゲーム。（cruyff）

これまでで唯一の無失点試合だったアウェー栃木戦も現地で見てないので.....。となると、やっぱり0-2からひっくり返した京都戦。FC岐阜全公式戦の通算600ゴールが永芳の決勝点。試合後の屋台村前の雰囲気は「勝って、いいなあ...」と思わせてくれるモノだった。（吉田鑄造）

第0節（アウェー） 栃木0-1岐阜

幸いなことに、今季は勝ち試合が極端に少なく（自虐）選ぶのに苦労はいらない...と思っていたけど、少ない分興奮度はどれも高くなっているため、苦労は例年と変わらず（苦笑）。その中で、前節大分戦までの時点で唯一の完封勝利を挙げたいと思います。一試合を通じて、選手全員が集中を切らすことなく戦えた試合。シチュエーションも最高でした（笑）。来季は、もっとこういう試合を増やしてほしいもんです！（ぐん、）

ベストゴール

押谷祐樹：第3節（アウェー）岡山1-2岐阜の1点目

あのゴールは凄い。スカパーの映像を何度も繰り返し見ました。あの映像でドンブリ飯3杯はいける！（ヤックル）これは文句なしに11/6第3節・アウェイ岡山戦での押谷の1点目でしょう！「DFに身体を寄せられつつ、ゴール前に走り込みながら、クロスボールを左足で真上に跳ね上げ、身体を反転させてDFのマークを一瞬だけ外し、そのまま右足でジャンピングボレー」なんていう、技術力も想像力も素晴らしいゴールでした。このシーンでご飯3杯はイケます（笑）。（ささたく）

嶋田正吾：第1節（ホーム）岐阜1-3東京V

個人技で奪った華麗なゴール。押谷からのヒールパスを受けると右の切り返し一発であのスッポン土屋を裏返しにし、慌てて出てきたGKを嘲笑うかのように左足ループでその頭を抜いて見せた。ゴラッ！惜しむらくは負けゲームだったこと（今年は仕方ないか...）。（cruyff）

アウェー岡山戦の押谷のアレは現地で見てないので.....。となると、ヴェルディ戦の正吾のループを。（吉田鑄造）

永芳卓磨：第1節（ホーム）岐阜3-2京都の決勝点

「スーパーゴール」といえば先日の岡山戦の押谷のアレがまず思い浮かびますが「勝利に直結」という意味で7/30京都サンガ戦、アディショナルタイムの永芳のゴールが印象的です。1票入りたい。その永芳はもういないし押谷も磐田に戻っていく、とこう書く今年が今年だけに（笑）来シーズンが思いやられますが、きっとその時々で素晴らしいゴールは生まれるはず。来年も期待しましょう。（ST57）

野垣内俊：第2節（アウェー）水戸1-2岐阜の決勝点

美しさやアイデアなら文句なしに第3節岡山戦（カンスタ）での押谷の一点目...なんですが、たぶん一番人気でしょうから（投稿が何件あるかは知らんけど）、あえてこのゴールを。

まさに終了直前の、という設定もさることながら、この試合まで6連敗。しかも、無得点という事態（無得点自体を打ち破ったのは同点弾の押谷だけ）を打ち破った劇的なゴール。それを叩き込んだ後、そのままゴール裏まで駆けてきてくれた野垣内の気持ちもうれしかった。忘れられないゴールです。（ぐん、）

MVP

田中秀人

今年の成績からいったら該当者無しとするべきところかもしれない。でもあえて選べば、崩壊守備陣の中で孤軍奮闘していた秀人だと思う。とにかく一人で幅広い範囲をカバーし、時にはドリブルで攻め上がりも見せた。2ゴールも記録したが残念ながら負け試合、お約束の得点後の皆からの「いじられ」は無し。見たかったよ...。それにしても新人の年のホーム開幕戦では相手の横パスを無謀にインターセプト狙って失敗し失点をくらっていたのが、3年間で順調に成長してくれたものだ。お父さんは嬉しいぞ。

（cruyff）

押谷祐樹

これは相当に迷いました。これだけ負けている（苦笑）のだから、悪い点が多かった選手などいる訳がないのだから...と、「該当なし」ってのも考えたのだけど、消去法的に考えていいたら、今期（現在）チーム得点王の押谷かな、となりました。（ささたく）

嶋田正吾

前節まで全試合出場。得点こそ少なかったが、不調者や負傷者が多かった攻撃陣の中で、シーズンを通してがんばってくれた。試合中のスタミナだけでなく、シーズンを通してのスタミナと警告も受けないクリーンな態度に心からの敬意と感謝を贈ります。ありがとう！（ぐん、）

地主園秀美

敢えてゾノ君を推してみる。彼がいなくなると、ボールが前線で収まらないので途端に岐阜の攻撃は空白になる。それを如実に知らされたのが天皇杯のギラQ戦だった（ゾノ君は特別指定選手なので天皇杯はFC岐阜の選手として出られない）。逆に言うと、「特別指定選手をMVPに推す」とはどういうことなのか...は読者の皆様でおもんぱかっていたいただけと嬉しいです（苦笑）。（吉田鑄造）

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チチミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休：日曜日（今日はお休みです）

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

 Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

今季の、そして来季のFC岐阜へ。

初めて投稿させていただきます。私は瑞浪市在住の会社員で、FC岐阜はJFL昇格当時から応援させて頂いております。今シーズンのFC岐阜には本当に失望しています。厳しい経営から、新たな戦力の補強が難しい状況は理解出来ます。しかしこの惨敗の原因は、各選手のプロ意識の低さにあると私は思います。例えば、選手入場の時に、自分の子供を肩車してくる選手がいますが、戦場であるピッチを何だと思っているのか、私には理解出来ません。

また、13日の草津戦のような好天に恵まれた日曜日のデーゲームにも関わらず、観客数が5000人に満たない現実も本当に深刻です。やはりプロは結果が全てです。チームが弱いゆえに何の魅力も無ければ、観客数が伸びないのも当然です。フロントも含めて、全ての面で意識改革をしないと来シーズンも同じ結果が待っているだけです。

この屈辱を大きな経験として、必ず巻き返してくれると私は信じています。期待しています。(大好き！岐阜)

私はホーム試合の時にグリーンズに所属して運営ボランティアをしています。メインスタンドのアプローチに立っていると子供達が「わぁー、すげえー」という歓声と共に駆け込んでいく姿をよく見かけます。子供達にとって長良川競技場は「ハレ」の場所なんだな~と思う。試合前は(苦笑)。

Jリーグに入会してから早4年。うちのチームはJリーグ屈指の低予算クラブ(苦笑)なんだけど最下位争いはしてこなかった。その事は少しだけ自慢だった(自爆)。でも今年は最下位「争い」すら出来なかった。原因は色々有るだろう。その事について一々言わない。それぞれの立場の人が他人の所為にするのではなく各々が分析・猛省して来年以降に繋げて行って欲しい。

「ボランティアしている試合が見れないから大変でしょう」とよく言われます。でもお客さんが笑顔で帰っていく姿を見送るのは自分に取って何よりのご褒美であり、得難い物です。来年は試合後もそんな「ハレ」の場である回数をもっともっと増やして欲しい。その為に来年もみんなで頑張りましょう。(ヤックル)

2試合残しての最下位確定。むしろよく今まで決まらなかったと言う惨状だったと思います。洋の東西を問わず、最下位になったクラブにはもれなく「肅清」の二文字が待っています。岐阜だって例外ではないでしょう。

では肅清対象はどれか？大きくわけて3つあると思います。1つ目は選手。2つ目は木村監督。そして3つ目は服部GM。当然複数もありえます。全部って選択肢だっていないわけではない(今西社長と言う選択肢もあると思いますが個人的にはそれは望んでません)。少なくとも何らかの血の入替は絶対に必要だし、無風オフなんて絶対に許さない。最下位になるってことはそういうことだと考えます。

ハッキリ書きますが方向性が間違っていたからこのような結果になったんです。もう一度書きますが誰かしらなんかしらの責任を取れ。その上で改めてクラブの方向性を示せ。これがスポンサー、サポーターに対する責任だと考えます。(ジュニア)

正直、今期はいろいろと考えさせられるシーズンだった。まだ2試合を残しているとはいえ、前節で最下位が確定。36試合で6勝5分25敗、勝ち点23。得点37失点79、得失点差-42。Jリーグに参入して4年間で、(年に依って試合数は違うけれど)明らかに最も悪い成績。総得点は37点と他チームと比してもそれほど悪くないと思うけれど、失点が酷すぎる。失点数19位の鳥取(53点)と比べても約1.5倍。毎試合、着実に1-2で負ける計算なのだから、そりゃ勝てる訳ないよなあ...とも思ってしまう。

結論から言うと、「選手の自主性を重んじる」との方針を掲げた木村監督の育成・采配が、完全に裏目に出たと言わざるを得ないシーズンだったと思う。その顕著な点が失点数。守備にはチームの規律が求められるものだから、その規律を徹底できなかった(=失点が多くなった)のは大いなる失敗だったと言えるだろう。また、チーム記録タイの6連敗が2回、7失点試合が1回、しかも連勝は1度も無いとすれば...(溜息)。

これだけ負け続けたにも関わらず、選手の補強やスタメン変更等の動きがほとんど見られなかったのも非常に残念な部分だ。開幕前は「今年は選手間での(スタメン争い等の)競争を」と言っていたのにも関わらず、だ。今年は東日本大震災もあり、キャンプがまともに来れなかったり、日程が大きくずれ込み、過密日程になったという点は考慮しなくてはならないが、その影響は他のクラブにもあったはずで、うちだけの問題ではないだろう。

データで振り返ってみると、「新生FC岐阜」として、現在の選手たち(の多く)がチームにやってきた2009年は、51試合62得点72失点と、「得点もするが失点もする、出入りの大きいサッカー」だった。翌2010年は、36試合32得点45失

点と、「守備を重視した結果、失点は減ったが得点は更に減ったサッカー」だった。そして今年は(現在のところ)36試合37得点79失点。「得点を重視したもののそれほど伸びず、逆に失点が増加してしまったサッカー」と言える。選手(スタメン)にそれほど変化がない状況で、これは一体どうしたことなのか。例えば、それは選手の補強の失敗(不足)なのか、戦術の失敗なのかなど、クラブは(チーム・フロントを問わず全体で)きちんと総括するべきだろう。

予算的には言えば、これまでもほぼ最下位だった我らがFC岐阜が、今まで最下位にならなかったのが不思議なぐらい(苦笑)で、また、毎年どこかのチームが最下位になる訳で、そういう意味では残念ながら最下位のシーズンがあるのも仕方ないことなのかな、とは個人的に思っている。ただ、今年は負け方が酷かったし、改善が見えなかったで、その閉塞感や苛立ちが、ことさら「酷いシーズン」だったように思ってしまう...のかなあ...(溜息)。ともあれ、「J1昇格3カ年計画」を掲げて臨んだ2年目の今年、最下位という結果に終わったということ、クラブは厳しく受け止め、大いなる反省と共に計画の見直しをはかるべきだろう。そのために、クラブ内はもとより、地域・スポンサー・サポーターとも大いに議論してもらいたい。

...まあ、今年があまりに酷かったから、来年は「これ以上酷いシーズンがあるなんて思えない」って思ってる部分があるのが僕の正直なところ(苦笑)。岐阜サポとしては「負け続けて耐え続けて最下位に甘んじる」っていう、今年は精神的修行(苦笑)に近い体験もさせてもらった。だからこそ、「来年こそは」と(まだ今シーズンも終わっていないけれど)思っている。今年は東日本大震災もあり、当初のクラブの計画は変更せざるをえなかっただろう。でも、「来年こそは」早い段階から計画して準備して、「臥薪嘗胆」「捲土重来」のシーズンとしてほしい。(ささたく)

来季に望むこと。

「ムダ遣いをしないこと」
3年計画といいながら、毎年監督が代わるのは如何なものかと。それがプラスになればいいけど、逆にムダな出費が増えてしまっ

ては意味がない。
「スローガンを大切にしよう」
共に創る。子供たちに夢を。とても、素晴らしいスローガンだけれど、足場も不安定、体力も不足な状態で上を目指してもしかたがない。ただ、ダメージを受けるだけになってしまいそうです。確かにJ1クラブのサポーターは多いですが、彼らがもたらしてくれるのは、入場料と屋台村での飲食代くらい(それでも、十分ですが)。アウェイにもたくさん通うサポーターほど遠征費用は切り詰めます。

FC岐阜のおかげで、懐かしい友達と再会できました。それまでには考えられなかった世代の仲間ができました。いくつもの絆が生まれました。地元、生まれ育った所にクラブができるというのは、そういうことだと思います。

今季の結果は残念だし悔しいけれど、それでも今までサッカーに興味がなく、まだ長良川競技場に足を運んだこともないような人たちが「調子悪いね」「また、負けたね」と言われるようにはなりました。少なくとも認識だけはしてもらっているんです。

クラブや選手の活動が与える影響は確実にあります。特に、じゃかにふれあった子供たちには頭着なんではないでしょうか。いずれは、その子供たちが自ら長良川競技場に足を運んでくれることを夢見て、信じて、地道にやっぴいこうではありませんか。即効性の強い薬やカンフル剤は副作用も大きいのではないのでしょうか？来季もいろんな活動に協力し、共に生き、子供たちだけではなく、大人にも夢を与えられるようなクラブを作っていきましょう！(ぐん、)

明確なチーム方針の発表の無いまま一年経過。毎試合のようにサイドに振られて失点、相手に先に触られて失点の繰り返し。要所で受けに回りファーストチェックすら人任せにすれば相手はプロだしやられるに決まっている。

選手に任せるといえば聞こえは良いが、(公私にわたり)選手を指導するのも仕事。今年「プロ意識を感じた選手」は数名。はっきりいって11人居ない。数少ない観戦の中、印象に残ったシーンが「東京V戦AWAYサポ全員円陣」。それくらい印象が薄い年だった。

来季は、とにかく「サッカー」で魅せることを最重要視してください。そうじゃないと友人も招待できません。

個の能力で劣る分、頭を使って賢く効率的なチームプレーをすること、ファールされてもなげ倒していくくらいの気概を見せてください(熊本の高木琢也監督曰く1日10km走れ)。

来季は原則日曜開催ゆえに私のような地方者は日曜ナイターには不参加の確率大。なので集客計画をしっかりと立てること。

古参サポーターの一人として、入れ替え戦も覚悟済。その場合はきちんと立会います。(ち~な)

今年何回目かの『前半は悪くなかった』。 大分2-岐阜【第36節】

前節で草津に敗戦し、これで最下位脱出には勝利し続けるしかなくなり、後が無くなってしまったFC岐阜。大分にはレンタル移籍中の永芳がおり、最近スタメンに定着して活躍しているみたいだけれど、だからといって、いや、だからこそ負けたくない相手。ところで、永芳がレンタル契約する時に「対戦相手が岐阜の時は出場させない」とかの条項は結ばなかったのね...（苦笑）。...そして、今期のJリーグも既に35試合を戦い、残りはあと2試合という、この状況になっても、またしても「前半は良かった」ってな試合展開だったのは、一体どういうことなんだろう...（溜息）。

確かに、前半は良かった。前節に引き続き、田中・川島のCBコンビで上手く守れていたし、中盤では新井と橋本が役割分担をして、ボールにプレスをかけて大分の選手を自由にさせていなかったし、攻撃陣も運動して積極的に攻め上がっていた。その結果、前半35分に、地主園が嬉しいJ初ゴール！もみくちゃんに祝福される地主園。この1点を守っての前半終了だった。

ところが、やっぱり後半に落とし穴が待っていた。PV観戦してたので監督のハーフタイムコメントが聞けたのだが...それも試合中のコメントだから鵜呑みに出来ないのは分かっているけど...「後半、大分がやりかたを変えてくるかもしれないが落ち着いて対応しよう」ってのは（僕も含めて）ツッコミが相当入っていた（苦笑）。そりゃ大分はホームで先制されて上手くいったないんだから、やりかたを変えてくるに決まってるじゃん...（苦笑&溜息）。そして後半54分、敵陣からの1本のロングパスに、大分FW森島が岐阜のDFラインの裏を抜け出すと、そのままGKと1対1になり、あっさり失点。同点に追いつかれてしまった。またしても、後半開始早々の失点。「前後半の立ち上がりは気を付ける」も、小学生でも知っているサッカーの鉄則でしょ（溜息）。DFラインも、オフサイドトラップを意識して上げていたと思われるが、その統率が取れておらず、結果として簡単に失点を許す結果となってしまった。

ここで選手全員が「まだまだ！」と自らを鼓舞して攻撃を続けられ、まだ勝負は分からないと僕は思ったのだが...DFラインに不安を感じたのか、失点で一気に疲労が出てきてしまったのか、ポランチ2人がずるずると下がってしまう。これで中盤前方にスペースが出来てしまい、後半で修正してきた大分を自由にさせてしまう。1失点目から8分後には、再び失点し、逆転されてしまう。2人のDFがボールカットに失敗し、ゴール前で相手FWをフリーにしたら、そりゃシュート決められるよね...（溜息）。で、追いつき逆転する為に、リントロウとブルーノと、FW2人を投入したまでは良いのだけれど...2人とも実戦から離れてる（というか、ブルーノは12試合ぶり、リントロウに至ってはJ初出場だ）から、全然チーム戦術にフィットしていないようだった。惜しいシーンも無くはなかったが、結局、このまま試合終了。これでFC岐阜の今シーズンの最下位が確定してしまった。

悔しすぎる敗戦の中で、唯一の希望は、やはり地主園選手のJ初ゴールだろうか。現在はシーズン途中からの強化指定選手ながら...何試合使ってるんだろう？（苦笑）の彼だが、来期はFC岐阜への正式加入が発表されており、来期の活躍に期待できるゴールだったと思う。

さて、いよいよ今期もホーム最終戦を迎える日がやってきた。終わり良ければ全て...とは、僕は正直言いたくない（溜息）今期の成績だけで、でも、やはりホーム最終戦は「絶対に勝たなければならぬ」試合だ。チームは、全力で戦う姿を、勝利を目指す気持ち、やっぱり最後にきちんと僕らに見せて欲しい。そして、勝利の万歳四唱と、「今年1年間お疲れ様」の拍手を、僕らにさせてほしい。そのために、僕は最後まで全力で声援を送り続けようと思う。（ささたく）

大分は異様に寒かった...。大銀ドーム（以前は違う名称だったけど）は、山を掘り下げて造ったんだっか、盛り土をして造ったんだっか忘れたけれど、その形状から風が通らず、とんでもなく蒸し暑いスタジアムと記憶していたのだが、この日はヒジョ〜に冷たい風が吹き抜け、応援中飛び跳ねてるのがちょうどいいくらい（笑）じっとしてたら、まちがいなく風邪を引いてしまうような環境だった。それを吹き飛ばすような試合になればよかったんだけどね。クラブ史上初めで、同じカテゴリーへのレンタル移籍となった15番と合間見えた試合。その結果は、もはや今季の慣用句になってしまった感のある「前半は良かった」という試合。せっかく、地主園のJ初ゴールを勝利で飾ってあげることができなかった。橋本からのロングフィードをトラップして、相手DFを抜き去ったの見事なゴール！あまりに鮮やかすぎて、こちらのゴール裏か

らは何が起こったのかわからなかったくらいだ（笑）。試合後に場内のビジョンでようやく確認した次第。アウェイ側のゴールを流してくれたことに感謝します。

この試合の選手交替は、いづれも攻撃的な選手という今季にはあまり見られなかった起用だったが、ブルーノと和範の交替には驚かされた。結局、新井を下げたんだと思うけど、この配置も今季初。最下位脱出のためには勝利しかなく、そのための攻撃的な布陣にする意図は見えただけ。ただ、リントロウにはいい形でボールが入らず消化不良。そういえば、J初出場だったかな？これをキッカケに来季はレギュラー争いができるようがんばってほしい。この日の敗戦で、これまで掲げてきたダンマクも空しく最下位決定。クラブの歴史に残念な結果を刻むことになってしまった。結果は結果として受け止めるしかないが、この順位に転落してからは一度も這い上がることなく、19位にも水を開けられたまま推移したことがたまたまなくサビシイ。過去3年間の実績から見ても、これほど差をつけられるとは想像だにしていなかったし、今でもそんなに差があるとは信じられない気持ちでいっぱい。せめて、今季の結果をしっかりと分析して、それを来季以降につなげてほしい。そのためにも、残り2試合、ホーム最終戦と今季最終戦を、きっちり勝利で締めくくってほしい。（ぐん、）

編集人から一言。

今季も全ホームゲームで『岐大通』をお届けすることが出来ました。東日本大震災による変則日程で水曜夜ホーム戦、日曜にもホーム戦なんて時もあったけどキツかったです（苦笑）が、なんとか目標を達成することが出来ました。これも、ひとえに読者の皆さまのご支援があったからこそと感謝しております。水曜夜の北九州戦で『岐大通』を配っている時に「ああ、よかった、今日も出してくれてるんだあ」と受け取ってくれたご婦人の笑顔を見ていると、やっけてよかったです...と思いました。

『岐大通』は、そもそもFC岐阜がJFLの頃に、まだクラブの運営組織が弱くてマッチデープログラムも発行出来なかった状況に対し、「ぼくらサポーターで何か協力できないだろうか」と始めたものです。つまり、『岐大通』の発行は「手段」であり、「目的」は「スタジアムの盛り上げの一端」でした。FC岐阜はJリーグのクラブとなって4年目のシーズンを終えようとしています。成績はいやはやでしたが（苦笑）、試合運営についてはJクラブのそれを満たしているように思います。『岐大通』の役割は終えたんじゃないだろうか、『岐大通』の発行が「手段」ではなく「目的」になってしまっていないだろうか...と悩みました。そんな時、北九州戦でのご婦人の笑顔に触れ、「ああ、これでいいんだ」と思い直したことを、正直にカムアウトさせていただきます（笑）。

「地元でJで戦うクラブがある」ということの影響を感じたのは、大垣・赤坂で行われた全国社会人大会の準々決勝の終了後、スポーツ公園に来ていた小学生らしいサッカー少年が、友達に横浜FC戦（4-3で勝利）のチケットを見せて「このチケットの試合で勝ったんだぜ」と自慢していたのを視た時です。これもカムアウトしますが（苦笑）、ぼくはむせび泣きそうになるくらい嬉しかった。もちろん、試合は勝った/負けたの繰り返し（今シーズンは必ずしもそうじゃなかったけど）だ。その、2週に1度の勝った/負けたを愉しみにする皆さんの、その愉しみの端っこにこの『岐大通』がほんの少しでも役に立っているのなら、嬉しいです。

現在、この『岐大通』はクラブにも相当枚数をお渡ししています。もしかしたら、目を通している選手もいるかもしれませんが、でも、クラブにもお渡ししているからといって、「クラブから独立しているファンペーパー」というスタンスは今後も変えるつもりはありません。毎年、シーズン最終号では「来年は（出すかどうか）わかりません」と申し上げてますが、たぶん来年もやります。だって、せっかくJFL時代からの4年半をかけて、ここまで積み上げて来たんですから。では、来年も長良川競技場の入口でお会いしましょう。1年間、ご愛読ありがとうございました。

『岐大通』製作委員会
編集担当：吉田 鑄造
印刷担当：ささたく